

基本情報

氏名：本田宗一郎
生没年：1906年11月17日
～1991年8月5日
(享年84歳)
出身：静岡県磐田郡光明村
(現・浜松市天竜区)
肩書き：本田技研工業株式会社
創業者

奇跡の根っ子人生年表

本田宗一郎 根っ子物語

「失敗のない人生なんて面白くないですね。歴史がないようなもんです。」

—— 本田宗一郎

すべての失敗が、根っ子になっていた。

人生を変えたのは、出来事ではなかった。
見えない「根っ子」だった。

第1章 根っ子が 育つ (0～22歳)

① 誕生と幼少期 1906年(0～15歳)

鍛冶の血・機械への憧れ



- ・静岡県浜松市天竜区の鍛冶職人の家に生まれる。
- ・父・儀平は鍛冶職人から自転車屋に転業。
- ・幼い宗一郎は父の仕事場で火花を見て育つ。
- ・「自動車を見て、魔法みたいだと思った。」

第2章 根っ子を 試される (22～42歳)

② アート商会での修業 1922～1928年(15～21歳)

ものづくりの魂が生まれた場所



- ・東京・満島のアート商会で6年間、自動車修理の技術を体系的に習得。
- ・21歳で「のれん分け」を受け、故郷・浜松に「アート商会 浜松支店」を開業。
- ・鉄製スポークの発明で特許料も稼ぎ、25歳時には従業員50人を超える大工場に成長。
- ・「やってみせんでなにがわかる」が口癖になる。

第3章 根っ子を 世界へ (42～65歳)

第4章 根っ子を 承継する (65～84歳)

根っ子学から見えること

命はつながっている。
父の手の温もりが、世界を変える
エンジンの根っ子になった。

根っ子学から見えること

学校を出なかった少年が、
現場で世界一の技術者になる
根っ子を育てた。

③ ピストンリング 挑戦と挫折 1936～1945年(30～38歳)

3年間の失敗・47本の不良品



- ・東海精機重工業を設立し、ピストンリング製造に挑戦。
- ・トヨタに提出した50本のサンプルのうち、47本が不良品として突き返される屈辱。
- ・浜松高工の聴講生になって勉強するも試験を受けず退学。
- ・3年にわたる試行錯誤の末ようやく製品化。
- ・太平洋戦争の空襲で工場が壊滅。
- ・終戦後、東海精機の株をトヨタに売却し38歳で無一文になる。

根っ子学から見えること

47本の不良品が、世界一を目指す
完璧主義の根っ子を育てた。
空襲による全壊が、「ゼロから始める力」
という最強の根っ子を生んだ。

④ 本田技研工業・創業 1948年(42歳)

「バタバタ」が世界を変えた



- ・1946年、廃材と旧陸軍の無価値用エンジンで「バタバタ」(自転車用補助エンジン)を製作。
- ・戦後の交通混乱の中で爆発的にヒット。
- ・1948年、本田技研工業株式会社を設立。
- ・翌1949年、経営の天才・藤沢武夫と出会い、「経営は藤沢に、技術は本田に」という究極の役割分担が始まる。
- ・「藤沢がいなかったら会社はとっくに潰れていた」と後に語る。

根っ子学から見えること

「愛ねる根っ子」の完成形。
自分の弱さを認め、信頼できる人に
全てを委ねることが、世界企業への
扉を開いた。

⑤ マン島TTレース宣言 1954年(48歳)

誰も信じなかった「世界一」宣言



- ・1954年、世界最高峰のオートバイレース「マン島TTレース」への参戦を宣言。
- ・業界も社員も「無謀だ」と驚く。
- ・初参加は成績不振。
- ・しかし1959年、125cc・250ccクラスで1～5位を独占。
- ・「HONDA=世界のHONDA」を全世界に証明した。

根っ子学から見えること

「確信の根っ子」の完成形。
誰も信じなかった夢を、自分だけが
信じ切った、その確信が、世界の
歴史を変えた。

⑥ スーパーカブ・ 世界展開 1958～1970年代(52～65歳)

世界6000万台



- ・1958年、「スーパーカブ」発売。
- ・世界累計生産台数6000万台超、人類史上最多生産の乗り物になる。
- ・四輪車にも参入し、政府の自動車産業保護政策にも正面から反論。
- ・「会社は個人の持ち物ではない」として社内を身内を一掃入れない方針を貫く。
- ・世界70カ国以上に事業を展開。

根っ子学から見えること

「使命の根っ子」の完成形。
「人々の生活の役に立つ乗り物を作る」
という使命が、国境を越えた。

⑦ 65歳での自発的退任 1973年(67歳)

「さわやかな引退」



- ・1973年、67歳で藤沢武夫と同時に社長・副社長を退任。
- ・「会社は個人の持ち物ではない」という信念を、自らの行動で示す。
- ・退任式で本田は号泣し、藤沢も泣いた。
- ・退任後は全国の工場・販売店を回し、油まみれの整備士の手を「その油まみれの手がいいんだ」と自ら握りしめた。
- ・身内への世襲は一切なし。

根っ子学から見えること

「愛ねる根っ子」の究極の実現。
手放すことが、会社を永続させる
最大の愛だと、行動で示した。

⑧ 晩年・感謝と 使命の完成 1973～1991年(67～84歳)

「満足だった」



- ・退任後も奥明・研究を続け、1981年に第一号航空宇宙車。
- ・1989年、アジア人初のアメリカ自動車殿堂入り。
- ・受賞後、帰国してすぐに先に亡くなった盛友・藤沢武夫の遺族を訪問。
- ・死の2日前、妻・さち子に「自分を背負って歩いてくれ」と頼み、念誦をぶら下げた金盃に胃液を吐き出した。
- ・「満足だった」という言葉を遺して1991年8月5日、84歳で死去。

根っ子学から見えること

「感謝の根っ子」の完成形。
死の直前まで、人を愛し、感謝を
伝え続けた。

⑨ 根っ子学からの メッセージ

あなたも、同じものを作れる



- ・本田宗一郎の人生に、順風満帆な時期はほとんどなかった。
- ・47本の不良品。
- ・工場の大炎、無一文からの再起。
- ・通産省との対立。
- ・それでも根が動いた根っ子は——
- ・「やってみせんでなにがわかる」という信念、藤沢への絶対的な信頼(愛ねる)、「人の役に立つものを作る」という使命、そして「満足だった」という感謝——7つの根っ子がすべて揃っていた。

根っ子学から見えること

あなたの人生にも、同じ根っ子がある。
見えていないだけです。

これまでの歩みから得た宝物

- ◆ 47本の不良品から生まれた、諦めない完璧主義
- ◆ 空襲による全壊から生まれた、ゼロから始める力
- ◆ 藤沢への信頼から生まれた、委ねる勇氣
- ◆ マン島宣言から生まれた、誰も信じなくても信じる確信
- ◆ 「満足だった」という最後の言葉に込められた、感謝の深さ

この瞬間も、奇跡。

失敗のない人生なんて面白くないですね。
歴史がないようなもんです。 — 本田宗一郎

47本の不良品。空襲による全壊、無一文からの再起。通産省との対立。
すべての失敗が、根っ子になっていた。
本田宗一郎の人生は、「見えない根っ子」が世界を変えた証明です。

根っ子学からの問いかけ

あなた自身の「根っ子物語」も、同じように作れます。
過去の失敗・挫折・迷回りのすべてが、
あなたの根っ子になっています。
根っ子学は、その見えない根っ子を可視化し、
未来の資本に変える学問です。
→ あなたの「奇跡の根っ子人生年表」を、
一緒に作りませんか。

根っ子学による総括

光根っ子(7系統)

- ✓ 信念(やってみせんでなにがわかる)
- ✓ 確信(マン島宣言、誰も信じなくても)
- ✓ 感謝(満足だった、藤沢への感謝)
- ✓ 愛(油まみれの手を握りしめた夜)
- ✓ 委ねる(社印も実印も見たことがない)
- ✓ 使命(人々の生活の役に立つものを作る)
- ✓ 平常心(失敗のない人生は面白くない)

影根っ子(引き寄せた試練として)

- ・ 完璧主義
- ・ 恐怖支配
- ・ 孤独感
- ・ 変遷完成主義

※これらの影根っ子が
あったからこそ、
光根っ子がより深く育った。